

あおばい3

vol. 1
2020.3



青葉区

地域で活躍する人を紹介

目黒 測さん(桜台)
桜台商店会長

渡辺 健さん(鴨志田町)
中里北部地区ちよこボラ代表

大野 承さん(美しが丘)
3丁目カフェオーナー

「地域活動」
で広がる
つながりの輪

「無欲」で広がるつながりの輪

青葉台駅から15分ほど歩いたところにある桜台公園の清掃活動を日課としている桜台商店会の目黒会長にお話を伺いました。

めぐる
目黒

はかる
測
さん

桜台商店会会長

北海道の農家出身。電機店の開業をきっかけに桜台に移る(桜台歴約45年)。

2013年から2019年まで青葉区商店街連合会会長を務めた。地域の方からは「じい」という愛称で親しまれている。

桜台

◆ きっかけ

「夏休みの子どもたちの居場所をつくりたいという思いでやった夏祭りが地域活動を始めたきっかけ。」と話す目黒さん。桜台の夏祭りは今では地元自治会町内会も参加し、町を挙げてのお祭りとなっています。

また、子ども好きな目黒さん「小学校の池の清掃を手伝っていたところ、なぜだか最終的には小学校のスクールゾーン協議会に所属していた。」とか。いかにも「らしい」エピソードも。

近所の人から愛着を込めて「じい」呼ばれることもあるそうです。

とある日の午後、桜台公園に目黒さんに会いに行きました。が…見つからない。20分くらい探し回っていると、ようやく雑木林の中に目黒さんを見つけました。3万5千㎡を超える桜台公園は青葉区で3番目の広さを誇ります。



公園のそうじ仲間とちょっと一息

◆ 日課

現在の目黒さんの日課は桜台公園の清掃です。始めたきっかけは健康づくり。3年ほど前にお医者さんから健康のため野菜を食べることとウォーキングを勧められました。ウォーキングを家の近くの桜台公園でやっている、「もつと公園がきれいな気持ちよく利用できる。」と思うようになり、落ち葉清掃や下草刈りなどの清掃活動を始めたそうです。以前は下草が生い茂り、公園から外の景色があまり見えなかったとのことですが、お話を伺った日は公園からきれいな夕日が見られました。

毎日のように清掃活動をしている姿を見て公園の管理人と、思う地域の人もいるようです。あくまでも自主的な活動というものの、今では、近所の人や芝刈り機や電動のこぎりをお貸してくれたり、公園愛護会と一緒に活動したりすることもあるそうです。

驚いたことに、この日も、公園の近所にお住まいの方が、清掃活動の音を聞き、駆けつけてくださり、一緒に清掃活動とすることになりました。こんなことって本当にあるのだなとつくづく思いました。地域の方々の協力もあり、桜台公園はいつもきれいに保たれています。

◆ モチベーション

地域活動を続けられる理由は「時間があるから」と笑って話す目黒さん。時間があるなら自分の趣味などに費やしてしまいたいのですが、「なぜ、地域のために活動を？」とたずねると「声をかけてくれる公園利用者との会話がうれしい。」と子どものような笑顔で話してくれました。また誰に頼まれるわけでもなく、自由に気楽にやっていることも続けられる理由のひとつだそうです。

「時間があるから」続けている清掃活動が適度な運動となる

り、地域のひととのコミュニケーションを生み、目黒さんの健康の源にもなっているようです。

◆ これから

目黒さんの頭の中には色々なアイデアが詰まっています。

青葉台にある3つの商店会（青葉台商店会・青葉台南商店会・桜台商店会）がまとまって何かできないか、桜台公園にオブリジェを建てられないかなど、様々な野望(?)を持っています。

ある時は商店会の会長、ある時は公園の管理人、無欲な「じい」の活動が桜台の人たちの輪をつなぎます。



「ちょこボラ」で広がるつながりの輪

インタビュー

わたなべ
渡辺

けん
健
さん

中里北部地区
ちょこボラ代表

名古屋出身。鴨志田町には1983年から

その後数回転勤をしたが、また鴨志田町に戻ってきた(鴨志田歴約35年)。

現在は、地域で困っている家庭に出向いて草刈りやゴミ出し、水やりなどのボランティア活動をする「ちょこボラ(中里北部地区ちょこボラ)」の代表を務める。

鴨志田町

自然豊かなところにひかれて鴨志田町に引っ越し、その後数回転勤をしたが家族の「また鴨志田に住みたい」という声で鴨志田町に戻ってきたという渡辺さんにお話を伺いました。



◆ きっかけ

「『ちょこボラ』を始めたのは、家族から『時間があるなら何かやりなさい!』と言われたのがきっかけです。」と少し恥ずかしそうに話す渡辺さん。

以前は「鴨志田わんわんクラブ」に所属して、公園の清掃活動やハマロードサポーター、防犯活動のわんわんパトロールに参加していましたが、一緒に暮らしていた犬が他界してしまい、わんわんクラブの活動から遠ざかっていったときに「ちょこボラ」に出会ったそうです。

今では団体の代表を務めている渡辺さんですが、始めたきっかけは自分から積極的というわけではなかったようです。



草刈りの最後は手作業で丁寧に仕上げます

◆ある日の活動

「ちょこボラ」の日、メンバーの皆さんは朝8時30分に集合し、鴨志田町にある家のお庭の手入れへ向かいます。しかし、普段はもっと早い集合時間だとか。傍らで仕事をりを拝見していると、メンバー3人で30分間、手際よく、草刈り・草木の剪定などをすませ、機械が入ら

ないところは手作業で行う丁寧な仕事ぶりです。それにも関わらず料金は900円！というかなり良心的な金額設定。その金額に依頼者もかなり申し訳なさそうでした。作業が終わると、メンバーの皆さんは疲れを見せず、笑顔で帰って行きました。この後は新しいメンバーへの説明会があるとのことです。

◆ちょこボラ

「ちょこボラ」は地域のちよつとした困りごとをボランティアでお手伝いする目的で結成された団体です。青葉区地域福祉保健計画の第2期(2010年度～2015年度)「青葉かがやく生き生きプラン」の中で生まれた団体で、渡辺さんはその代表を2019年から務めています。立ち上げ当時は年間30件くらいだった依頼が、



地域住民の高齢化もあってか2019年度は12月までの間に100件も依頼があつたそうです。

依頼件数は増えていますが、メンバーは立ち上げ当時からあまり変わっていないのが悩みの種で、「Wanted!!」というインパクトのあるチラシで、メンバーを募集しています。

◆活動の魅力

自分もいざれ助けてもらうことになるかもしれないから、助けることができるうちは、「ちょこボラ」を続けたいという助け合いの考えが渡辺さん

の中にあります。

活動の魅力を何うと「庭の草刈りをして、依頼者と『きれいになった』という感情を共有できることが活動を続けるモチベーションとなり、楽しみと なっています。」と熱く話す渡辺さんに、これからも鴨志田の町は助け合いの輪が広がっていくのだろうと感じました。



草木の剪定も行います

お
お
の
大野

し
よ
う
承
さん

3
丁
目
カ
フ
エ
オ
ー
ナ
ー

東京出身。約50年前、家族で
美しが丘に引っ越してきた。
(美しが丘歴約50年)
2014年に3丁目カフェを開
業、オーナーを務める。

美しが丘

「なりゆき」で広がるつながりの輪

美しが丘にある3丁目カフェ
のオーナーとして忙しい日々
を送っている大野さんにお話
を伺いました。

◆ きっかけ

地域活動を始めたきっかけを伺うと「2005年に会社を退職した翌年、いきなり地元の美しが丘中部自治会の会長となったのが地域デビューのきっかけ。でもそれは当番で仕方なく…」と大野さんは笑いながら話してくれました。

自治会長となった1年間のうちに地域の先輩方からいろいろお誘いがあり、なりゆきで地元の老人会や社会福祉協議会など多くの活動をやるようになったそうです。

活動のきっかけは当番で「仕方なく」、活動が広がったのは「なりゆき」でと、なんだかキツネにつままれたような話。これが大野さんの地域でのつながりづくりの始まりです。

◆活動の理念

「仕方なく」始めた地域活動でしたが、そこから地域の課題が見えてきたそうです。その課題に対して必要なことは3つ。「居場所」「隣組」「情報サイト」です。「居場所」は地域の人々が寄り合える井戸端会議的な場所、「隣組」は隣人や地域とのつながり、「情報サイト」は地域の情報が共有できるサイトとのこと。

実際、活動を行ってみて地域のつながりの希薄化、居場所の少なさなどを大野さん自身がひしひしと感じたそうです。

◆3丁目カフェ

活動理念の1つ目「居場所」の構想が「3丁目カフェ」です。

「3丁目カフェ」は東急電鉄と横浜市が協働で行った次世代郊外まちづくりの住民創発プロジェクトの1つとして実現したものです。オープン当初はランチ営業に加え夜の営業もしていました。が、「地域のニーズに合わせていったら自然とこのような



ライブ設備も充実しています

形になった。」と、今では主に地域のイベント会場として、ファミリーバンドや地元高校生のライブやお笑いライブなどが行われています。

ちなみに、ここに出演して有名になったお笑い芸人もいます。

◆つながりの場

「3丁目カフェ」は、現在、年間400件のイベントが開催されており、イベント会場として地域のつながりの場となっています。「居場所」だけでなく、この場所では活動理念の2

つ目である隣人や地域とのつながり「隣組」も生まれています。

活動理念の3つ目「情報サイト」も最初は大野さん自身が発信していましたが、現在はジモトがもっと好きになるサイト「ロコうち」などが担っているそうです。

◆数多くの活動

お話を伺った時にいただいた名刺の裏を見るとびっくり！裏面に活動する自治会や団体名が16個、びっしりと印刷されています。「なりゆき」にはは…すごい。

3丁目カフェが忙しくなっ



「あおばdeスタートセミナー」の講師として話す大野さん

てしまい、あまり他の活動に参加できていないのですが、ますますアプリを活用し「お互い様」の街の実現を目指す「たまプラーザ・みまもりあいプロジェクト」への参加や、青葉区のコミュニティカフェの先駆者として区主催の「あおばde

スタートセミナー」の講師に呼ばれるなど、「なりゆき」と話されている地域活動は当番の自治会長を務めてから約15年続いており、今でも多方面にわたり活躍されています。

店先に貼られていた、たくさんイベント告知のチラシが地域のつながりの輪を物語っていました。



店先には多くのチラシが



中里北部地区ちょこボラ代表
渡辺 健さん



3丁目カフェオーナー
大野 承さん

青葉区地域力応援通信「あおばいろ」

発行元 横浜市青葉区政推進課地域力推進担当
〒225-0024 横浜市青葉区市ヶ尾町31番地4
TEL: 045-978-2286 FAX: 045-978-2410

発行日 2020年3月
印刷所 山王印刷株式会社